


花 3月～5月	スミレ科	
アオイスミレ		
<p>アオイスミレは、スミレ属のなかで目だって花期の早いもののひとつ。多くは、桜のつぼみもまだ堅いうちに咲き始める。</p> <p>落葉樹林の縁など半陰地に群生する多年草。毛が多く、匍枝があることで見わけられるが、慣れてくると花の咲き方もずいぶん違いがあることに気がつく。アオイスミレの方が花立ちが悪く、葉の上に花をのせるように咲き、また花弁が波うちすっきり開かないことが多い。また、花にはよい香りがある。</p>		
花 初春	キンボウゲ科	
フクジュソウ		
<p>花期は初春であり、3-4cmの黄色い花を咲かせる。当初は茎が伸びず、包に包まれた短い茎の上に花だけがつくが、次第に茎や葉が伸び、いくつかの花を咲かせる。この花は花弁を使って日光を花の中心に集め、その熱で虫を誘引している。その為、太陽光に応じて開閉(日光が当たると開き、日が陰ると閉じる)する。葉は細かく分かれる。夏になると地上部が枯れる。つまり初春に花を咲かせ、夏までに光合成をおこない、それから春までを地下で過ごす、典型的なスプリング・エフェメラルである。</p>		
花 早春	ユリ科	
カタクリ		
<p>早春に10 cm程の花茎を伸ばし、薄紫から桃色の花を先端に一つ下向きに咲かせる。蕾をもった個体は芽が地上に出てから10日程で開花する[2]。花茎の下部に通常2枚の葉があり、幅2.5-6.5 cm程の長楕円形の葉には暗紫色の模様がある。</p> <p>地上に姿を現す期間は4-5週間程度で、群落での開花期間は2週間程と短い。このため、「スプリング・エフェメラル」(春の妖精)と呼ばれている。種子にはアリが好む薄黄色のエライオソームという物質が付いており、アリに拾われることによって生育地を広げている</p>		